

文学7 (日本のことば) 13の講義内容

「パロディ」なにつぼん博物志

「パロディ」とは

パロディー [Parody] 既成の著名な作品また他人の文体・韻律などの特色を一見してわかるように残したまま、全く違った内容を表現して、風刺・滑稽を感じさせるように作り変えた文学作品。日本の本歌取り・狂歌・替え歌などもその例。演劇・音楽・美術にも同様のことが見られる。≪三省堂『大辞林』第二版より≫

たとえば、文章作品では、夏目漱石の小説を元にした作品『我が輩は……である』形式の『吾輩ハ鼠デアル』『我輩ハ小僧デアル』『吾輩はビールである』といった多くのパロディーなどが知られている。



なかでも極めつけは、芥川賞作家である奥泉 光著『吾輩は猫である』殺人事件』(新潮文庫刊)であるまいか。もう既にお読みなられた方も再度どこがパロディーなのか考えてみると良いかも知れない。タイトルの「……殺人事件」とあるからこれはミステリー小説かと思いきまされてしまうだろうが、これはミステリー小説というよりパロディーアスな作品というのが本音であろう。著者の「オクイズミヒカル」には、他にも漱石小説の『坊っちゃん』をモチーフに幕末の京都を舞台にした時代小説と思わせる『坊ちゃん忍者幕末見聞録』(中公文庫)もある。

そこで、なぜ「パロディー」化の作品を学習するのかということだが、『大辞林』が説くように、日本の古典文学作品における韻文学における「本歌取り・狂歌・替え歌」もこの範疇に容れて考えて良い。また、物語文学では『伊勢物語』を『仁勢物語』、『枕草子』を『犬草子』としたものも含まれてくる。こうした基幹文学作品と呼ばれる名作には、この手の「パロディー」な作品が発生しやすいということにもなる。

「パロディー」化の作品

(1) パロディーは粋な遊び

たくはへもみな月はて、一文もけふは なごしのはらいだにせず

この江戸時代の狂歌を読みやすく仕立て直すと、「蓄えも皆尽き(水無月)果て、一文も今日は夏越しの祓いだにせず」となる。「夏越しの祓い」は、旧暦六月の晦日の行事で、六月の末、つまり半期の支払いの意味を振っている。この遊び心を燦らせていくと、こんな酒の上での会話が弾み出す。「俺の酒は『義経千本桜』なんだ」「ほう？なに？」「静かに、只呑む」といった落語の三段なぞめいた語りとなる。このときに、歌舞伎『義経千本桜』の内容を知らない無智な輩には、とんとその意味合いが理會できないのである。ここに、義経の愛妾「静御前」とその勇臣である「佐藤忠信」を知らなければさっぱり判らないからだ。



歴史上の人物である源義経を題材にしたパロディーも後を絶たないことは言うまでもないことだが、推理作家の高木彬光著『成吉思汗の秘密』〔光文社刊〕もその一例としておきたい。この文章は、源義経が高館の戦で自刃せず、東北を北上し北海道に渡り、そこから更に大陸に渡って、モンゴル帝国を築いたチンギスハーンとなったという風説を推理・論証した作品である。この義経Ⅱチンギスハーンを結びつける一つに、静御前が源頼朝・北条政子の御前で義経を偲びながら舞哥する



しづやしづ賤のをだまきくり返し 昔を今になすよしもがな

に敷衍させ、「なすよしもがな」を漢字表記することで「成吉思汗」とするところは見事な論証の落としどころともいえる。ここで、明治時代の森鷗外『かのように』〔中央公論〕一九一二（明治45）年一月初出」という作品を紹介しておく。この一文を二例ここに抜粋しておく。

① 「お母あ様程には、秀麿の健康状態に就いて悲観していない父の子爵が、いつだったか食事の時息子を顧みて、「二肚皮時宜に合わずかな」と云って、意味ありげに笑った。」

② 「なぜって知れているじゃないか。人に君のような考になれと云ったって、誰がなるものか。百姓はシの字を書いた三角の物を額へ当てて、先祖の幽霊が盆にのこのこ歩いて来ると思っている。道学先生は義務の発電所のようなものが、天の上かどこかにあつて、自分の教わった師匠がその電気を取り続いて、自分に掛けてくれて、そのお蔭で自分が生涯ぴりぴりと動いているように思っている。みんな手応のあるものを向うに見ているから、崇拜も出来れば、遵奉も出来るのだ。人に僕のかいた裸体画を一枚遣って、女房を持たずにいろ、けしからん所へ往かずいろ、これを生きた女である

かのように思えと云ったって、聴くものか。君のかのようにはそれだ。」

(2) 日本人なら漢字で感じを悟る

漢字で表記された文章には、その漢字そのものが読みにくく、漢字を知らないで読んでも「チンプンカンポン」なことしか知り得ない。そこで、その読めそうもない漢字のことばを揚げておくことにする。

《問題》次の漢字を読んでみましょう。（各2点×50）

- | | | | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|
| 1, 久振 | 2, 師走 | 3, 畢竟 | 4, 只管 | 5, 就中 | 6, 微衷 | 7, 荆棘 | 8, 黄昏 |
| 9, 刀自 | 10, 傅育 | 11, 書肆 | 12, 惹句 | 13, 曠恚 | 14, 快哉 | 15, 知己 | 16, 兵站 |
| 17, 狷介 | 18, 仮初 | 19, 胡散 | 20, 云云 | 21, 啓蟄 | 22, 面炮 | 23, 悉皆 | 24, 欠伸 |
| 25, 流石 | 26, 仮令 | 27, 生憎 | 28, 誰何 | 29, 上梓 | 30, 暇乞 | 31, 塩梅 | 32, 臯臯 |
| 33, 忸怩 | 34, 涅槃 | 35, 反故 | 36, 燐寸 | 37, 狼煙 | 38, 大姉 | 39, 衆生 | 40, 石女 |
| 41, 端倪 | 42, 怯懦 | 43, 剽窃 | 44, 鳥渡 | 45, 棧敷 | 46, 含嗽 | | |
| 47, 下手人 | 48, 五月蠅 | 49, 木乃伊 | 50, 美人局 | | | | |

この五十字の漢字ことばは、いずれも明治期から昭和期までの作品から引用している。当然この漢字ことばには前後の文脈が存在する。どのような作者の、どのような作品に用いられている漢字ことばなのかを探る楽しみが読む側にはある訣だ。ただこのような漢字ことばだけをすらすら読むのは漢字力を高めただけで終わってしまう。それよりは、この漢字ことばが使用されていることばの背後を知ること、その意味合いを含め、文章の表現力を高めていくことが肝要である。その動機づけになることは云うまでもなからう。まずは、はじめてみることにしよう。

1, 【久振】であれば、夏目漱石『坊っちゃん』に「その晩は久し振に蕎麦を食ったので、旨かった

から天麩羅を四杯一平たろげた。」にはじまり、永井荷風『西遊日誌抄』に「久振今村子と共に中央公園を歩み樹間のベンチに語る」と引用されている。このように、用いられている文章を調べてみることで、漢字ことばが貴方自身の文章理会のなかで少しずつ広がり始めていくことになるからだ。

とはいえ、昨今のパソコン機器の普及に伴って、経済社会をはじめとし、学校教育における日本の識字能力は、書くという文章力を凡てワードプロセッサに委ねつつあることも事実である。ここでも漢字は忽ち一画一画丹念に筆記しなくても、キー入力だけで実に単簡に記述されていくからだ。このままでは、伝統的な漢字を手で書く能力そのものが衰退してしまうことに繋がるだろう。これを歎くのは簡単だが、これを遺す方法は本統にないものか、もっと模索するべきであり、まだ諦めてはいけないと私は考えている。であるから、隗より始めよ、筆墨にて手書きで日本語（漢字・ひらがな・カタカナ）を書くことを常日頃心がけている。

(3) 「離合漢字」を用いる

私は、「離合漢字」を研究して思ったことがある。それは、ここに収載された「離合漢字」の資料を日本人の習字者が実に驚くほどの長い年月を掛けて「読み書き」にこの文字を用いてきたことである。その資料の名前は、『小野篁歌字尽』と云う江戸時代の寺子屋での教科書として、約三百年間京都を中心に大坂・江戸各地で出版され続け、その冊数は数千種にも及ぶものである。

現存する資料では寛文二年（一六六二）一月刊本（京都・近江屋次良右衛門板）や図絵にした「寛文十一年辛亥正月吉日松會開板」の奥書きを有する小泉吉栄個人蔵の版本が最古（一六七一年）の江戸開板資料があり、当時の漢字学習の様子が垣間見られるのである。これ以前にも室町時代に『瑠玉集』が「天一大地土也」として、「天はもつばら大きなり、地はつちなり」という離合漢字の資料が知られ、これは江戸時代になると『弘法大師離合歌』として名を変え出版されている。

これらの離合漢字の資料は、私の紀要論文資料として採り上げているのでよかったら参照されたい。その一端をここに掲載しておく。



木 椿つばき 榎えのき 楸あかじ 柞あざみ
春をばつばき 夏はゑのきに 秋ひさぎ 冬はひらぎ

茗みょう 荷か 蓀すん 蕝けつ
名と何ををへバ茗荷に 路ハふき 繁ハはこへ 取ハくさむら

瓜つめ 瓜かり 樂らく 樂がく 樂がく 樂がく

つめにつめなくうりにつめあり
らくがくぎやうはくじもく也
白 自 目

この「離合漢字」は、61「巳己巳己」の文字にも生かされていて「巳にかみ己にはしもにつきにけり。巳は皆はなれ巳は皆つく」となる。この学習方法には、漢字ことばの微妙な点画の違いを細かに分析し、説明しているのであるが、これを実行すると旧字であろうが知る手がかりにはなるはずである。字の説明というより記憶術と云うものか。例えば、「壽」字の場合には「土のフエは一寸」と書くど覚えるやり方がこれである。「次の皿を隠して持ち帰るのは盗みです」「心を亡くすとすべて忘れてしまう」「衣の真ん中を執つてしまふと狼麩」「戀は糸し糸しと言ふ心」「松という字は木へんに公よ、きみが来なけりやまつでない」というなど図り知れない考察力が働くことにもなる。実はこの教科書も「パロディー」化の対象になっている。同じく江戸時代に、式亭三馬が『小野篁歌字尽』を文字って『をのゝばかむらうたじづくし』（実際は漢字で書く）という書物を書き上げている。冒頭の「木」を「人」に替えて、「ひとにはるはうはき、ひとになつは…、ひとにあきは…、ひとにふゆは…」と始まる。このような寺子屋の漢字教科書である往来物資料も長い間用いられていることで江戸時代の一つの名作と成っていると見ては如何なものであろう。

この「離合漢字」をもっと現代の私たちもやって見る価値はあろうというものである。「石に当たれば皮も破ける」「柴又帝釈天の邊で風天の寅さんが演説します」という塩梅に読み上げながら、漢字をことばにして学習する。そのなかで、漢字とそのことば身につける。その識字能力も倍増していくことが考えられるからだ。どうぞ、今日から即、貴方もお試しあれ。

ところで、この「演説」なることばだが、二〇〇七年一月二十七日（土曜日）付、朝日新聞「天声人語」欄に、福沢諭吉が「演舌」を「演説」に改変して登場した近代の造成漢字だということが記載されていたが、その真相は如何なものか……。※

最後に禅語ならぬ前後左右の文字による名文句をここに披露しておく。京都府竜安寺の蹲いに水戸



光圀が献上した「知足の蹲い」がある。これは「口」字を中心前後左右四文字を表現したものであり、「吾れ、唯だ、足るを知る」と時計回りに読むのである。この前後左右ならぬ禅語の奥行きを今に示して いることの漢字の有する凄さを学ぶことになるからである。この模 造は、水戸の偕楽園にも設置されているので、どちらか機 会があれば是非見ておくとよいであろう。

そこで、「口」字を中心とした前後左右の四文字を他に作ることをここに提案する。貴方であれば、どんな禅語が生み出せるであろう。もし、「口」字でなければ、「日」「月」「山」「木」ではどうであろう。試みに一つ、「吉叶呆加」は、

十
士口木

吉叶ふは呆け加はる…吉き事がかなうというのは呆けの始まりかもしれぬぞ

と云った誠語めいた表現になる。

これは時間を必要とする知的言語遊戯なのだから、時間をゆつたり過ごせる環境のなかに身をおかないと生み出せないのかも知れない。何はともあれ、心ゆくまでこの夏休暇にでも挑戦してみたいものだ。この「知足の蹲い」も実は「パロディー」化の作品の一つである。素は最古の錢である「和同開珎」が本家本元であろう。この錢も正しくは、「和同開寶」と読むのである。

縦文字遊びと横文字遊び

芦—扇—翌—音—昇—盛—海
卅戸 戸羽 羽立 立日 日升 升水 水毎

ここで、何を学ぶかと云えば、部首の上下型と左右型である。それぞれ二十四組を学習する能力を身につけておくと良からう。次に挙げる漢字の部首名の呼び名を知っているか？如何かな…。

【上下型】

卅 卌 竹 土 馬 穴 心 卍 手 日 皿 言 雨 艸 肉 力 石 木 食 彡 音 糸 車 女

【左右型】

木 食 月 欠 舟 言 金 王 車 馬 女 貝 才 イ 日 酉 耳 ネ 斤 卩 牛 彡 禾 卩

では、この部首漢字を巧みに一つずつ用いながら一文にすることをやってみよう。例えば、「電柱のそばに駐車して付近の住民に注意された」という文章には、「主」文字を基調とした四文字が盛り込まれている。同じように、「衛星の緯度と偉人の違反は判らない」や「最低の抵抗で底地の豪邸がある祇園の地をまもった」式の文章で各々漢字ことばを身につけることもなろう。

「パロデーイ」語及び文字化の作品を探す

ここに、紹介した資料はまだ氷山の一角に過ぎない。実際にこうした「パロデーイ」化の作品群を探し出すことは、日々の言語生活にメリハリを付けることにもつながる。例えば、日本人で歴史人物である私たちのなかで「徳川光圀」を現代の人で知らない人はまずいないと確信する。なぜかと云えば、『水戸黄門漫遊記』なる書物がテレビ時代劇になり、茶の間に置かれたテレビから流れ出して久しい。お侍の角さんが三つ葉葵の印籠をなぜか懐から取り出して、最後の決めセリフに「静まれ！ 扣え居ろう。ここにおわす方をどなたと心得るぞ。先の副將軍水戸光圀公にあらせられるぞ。皆の者頭が高い。扣え居ろう！」という、あの「越後のちりめん問屋の隠居」姿に身を窺って諸国を旅して土地の悪代官や悪家老などの悪事を突き止めて世直しして廻る筋立てである。そこで皆さんに問いかけである。「越後のちりめん問屋の隠居」の「ちりめん」って何か知っていますか？「縮緬」と漢字表記する。であるが、普通「ちりめん」のことばを耳にしたとき、多くの人は「ちりめんじゃこ（雑魚）」を想起するのであろう。すると、「越後」＝「新潟県」の「ちりめんじゃこ」を一手に商う問屋さんの隠居というイメージが類推されてくる。本来の「縮緬」も水には縁があり、水が取り持つミスマツチを意識的にここで活用するとこれがパロデーイ化のきっかけとなるのである。このように口にもぼらせて耳で聞くことばにはよく似ていることばをおおにして多いのが日本語のことばなのである。地名「水戸」を「伊東」と聞き違えて、駅で乗車切符を買ってしまふなんて羽目にならぬようにしよう。というか、もう自動切符購入機のお蔭で、ことばの聞き違いは程なく皆無となった。でも、逆に文字表記によるパネルタツチが別な要因を生み出そうとしている。文字（漢字）も知らぬと困るのだ。駅名の難漢字をこころで学習しておきたい。

- ① 留辺蘂
- ② 美利河
- ③ 比布
- ④ 長万部
- ⑤ 音威子府
- ⑥ 呼人
- ⑦ 大楽毛
- ⑧ 咲来
- ⑨ 聖天坂
- ⑩ 喜連瓜破
- ⑪ 布忍
- ⑫ 清児
- ⑬ 河堀口
- ⑭ 放出
- ⑮ 学文路
- ⑯ 郡家
- ⑰ 及位
- ⑱ 海士有木
- ⑲ 海山道
- ⑳ 荊安賀

《二〇〇八年の新聞掲載のコラム記事から》



日本国の総理大臣が自民党のなかで安倍晋三、福田赳夫、麻生太郎と矢継ぎ早に三度目の交代劇が演じられた。若者ことばでこの交代劇を「チェンソウ」と言う。この麻生総理大臣、就任以前から「マンガおタク」として知られ、かなりのマンガに精通されたお方だと評判が高かった。国語力も「マンガおタク」の若者たちと同様だとは国民の誰しも知らぬ所だったが、いざ一国の総理大臣となり、国会での答弁や会見などの場が多くなったことで、公開の場で直に話すことが多くなったこともあって、人々の耳にするところとなったのである。ここに失言というより、失読三件が読売新聞の「コラムまんが」となって十一月日付け新聞紙に掲載されているので紹介しておくことにする。

「①頻繁な読み間違いは②未曾有のことで③踏襲すべきでない。」と云う漢字熟語の三語の読み方である。これを麻生さんは、どう読んだか？ 時が経てば誤読のことが判らなくなってしまいかも知れないのでここに記録しておきたい。皆さんは「わかるかな？」そして、十一月中旬頃から彼の異名は「KY首相」（「空気(K)」が読(Y)めない）に「漢字が読めない」をひっかけた呼び名であると言っているのである。さらに、首相としての資質を疑問視する雰囲気生まれてしまったことを自民党職員は嘆くばかり。その追い風は「KY」冠の呼び方「解散もやれない」「経済がよくわからない」……と表現する。

〈回答〉

10月15日「慰安婦問題につきましては、政府の基本的立場は現在も河野官房長官談話を「ふしゅう」するものだ(参院予算委員会)で、「踏襲」を読み間違えて)」

11月7日「村山談話は基本的に「ふしゅう」していく(参院本会議で「踏襲」を読み間違えて)

11月12日「これだけ「はんぎつ」に両首脳が往来したのは例がない(四川大地震は「みぞうゆう」の自然災害」(日中青少年友好交流行事で、「頻繁」と「未曾有」を読み間違えて)

《閑話休題コラム》

その1

「海海海海海」と書いて、「あいうえお」と読む。その心は、「海女」「海糠」の「あ」、「海豚」「海石」の「い」、「海胆」「海蛤」の「う」、「海老」「海鶏」の「え」、「海髪」の「お」と読むからだ。ところが、現実はもつと不可解なのが「海」字である。例えば、「海月」「海蓴」「海藤」「海石榴」「海桐」「海苔」「海螺」「海盤車」「海牛」「海鱧」「海鞘」「海仁草」「海布刈」「海松」「海雲」などと読み書きするから「く・こ・し・つ・と・の、……」と読むことも実はあるのである。このように一字の漢字を幾通りかに読むことを知っていないと、この知的言語遊戯の坩堝に陥りかねない。

実際に、「一一一一一一一一」と書いて何と読ませるかという字が室町時代の古辞書『運歩色葉集』に見えている。

また、現代でも「生」字は、一六五通りの読み方があることが指摘されている。是非、お調べになってみることに「ヒ矢マフト人」い無し。

その2

- ① 「二十一回猛士」とは、幕末の志士「吉田松陰」のこと「吉田」をほぐした離合文字。
- ② 「わたしは朝生まれだが、何月何日に生まれたか？」は、「朝」字を分解して、「十月十日」。
- ③ 「一尺八寸のなかに川があり、池があり、家がある。人も住んでいる、動物もいる。さてさて、一尺八寸とは？」は「村」字を分解して、「十八寸」つまり「二尺八寸」と云う。

- ④ 「咳」^{せき}字は、アメリカ小説『風と共に去りぬ』
⑤ 「切」字を放ち書きにして、「寄らば切るぞ」。
⑥ 「親切」は、「親を切る」って読むとぶっそうなので「深切」と書く？ すると、「深く切る」ってこと？、いやいや「親しく切る」のだよ。

その3

万葉歌人で歌の聖と称せられる柿本人麿の名歌

ほのぼのとあかしの浦の朝霧に　しまがくれ行く舟をしぞ思ふ
という歌ですが、

朝霧にしまがくれ行くほのぼのと　あかしの浦の舟をしぞ思ふ
朝霧にあかしの浦のほのぼのと　しまがくれ行く舟をしぞ思ふ
ほのぼのとしまがくれ行く朝霧に　あかしの浦の舟をしぞ思ふ
ほのぼのと舟をしぞ思ふ朝霧に　あかしの浦のしまがくれ行く
ほのぼのとあかしの浦の朝霧に　舟をしぞ思ふしまがくれ行く
と詠んだって、立派な日本語の和歌なのです。クイズ番組で人麿の本物の歌はどれかと云われたらどうでしょう。ここにパロディが生きているのです。

その4

平安時代を代表する色好みの中將在原業平、彼の業平を主人公に描いた歌物語『伊勢物語』、これを時代が下っていつしか『仁勢物語』と称す物語あり。その骨法、文彩を真似て書き出した『似非物語』^{にせ}なむありけり。

むかし、男ありけり。その男、早稲田大学の職員なれば、「早稲田野球部は強くあるべし」と思ひて、成績原簿に手心を加へけり。されど、司直に引き立てられ、その司直のいへる。

名にしおはばコト問はむ都の西北不正行為は在りやなしやと

男、返し、

受からざる人の成績底上げのばれるなどは思はざりしを

司直、この歌に愛でて、「寿司らーめんをおごるぞ」ぞといふなる。

その5

同じく平安時代の宮廷女房清少納言の随筆『枕草子』、これも江戸時代の初期に仮名草子として『犬枕』あり。見たきもの、腹の立つもの、嫌なるものなどと七〇餘の項目を立てて、これに五つ六つ箇条書きや狂歌を盛り込み、人事百般を類別し、批判した。著者は、豊臣秀次や家康公の侍醫であった秦宗巴^{そうは}。これをも今に擬えて、

見たきもの

月、花、雪、おもふ人の貌

澄みたるながれ、草木の露

緑の野山、　オバマ巡り

東大の初優勝、石川遼の海外優勝

司馬遼太郎のノーベル文学賞受賞

もし有らば無私無欲の政治家

われらがさい宰相の脳味噌のなか

《参考文献資料》 井上ひさし著『にっぽん博物誌』（一九八三年、朝日新聞社刊）